



目次:

- 1 はじめに
 - 2 質問の検討
 - 2 前進するための方法: IBM® cloudMatrix
 - 2 ステップ 1) 既存のリソースの発見と同期
 - 3 ステップ 2) 新しいパブリック・クラウド展開の追跡
 - 3 ステップ 3) 認証リソースを使用するインセンティブの作成
 - 3 IBM cloudMatrix が重要な理由
 - 4 IBM cloudMatrix のメリット
 - 5 まとめ
-

シャドー IT の難題の解決

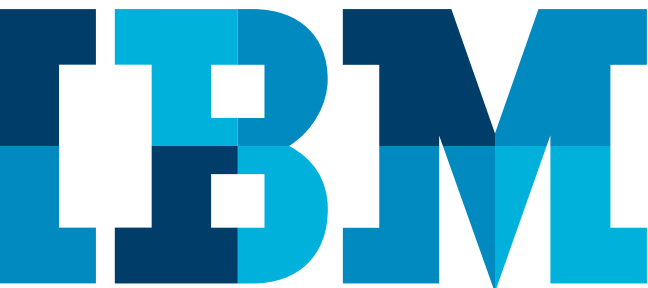
マルチ・ソースの運用モデルを採用することで革新を後押しできる

はじめに

ほんの 5 年前、クラウド・インフラストラクチャでワークロードを実行していた組織は 10 社のうち 2 社未満でした。¹ 現在まで話を進めると、Rightscale が最近行った調査では、93 パーセントの組織がプライベートとパブリック・クラウド機能の組み合わせを使用していることを示しています。² サービスとしてのソフトウェア (SaaS) やサービスとしてのインフラストラクチャ (IaaS) のいずれであっても、パブリック・クラウド機能はオンラインで幅広く利用できます。また、会社がハードウェアを購入する必要がないため、設備投資は不要です。職場で協力するためのツールや、新しいアプリケーションを立ち上げたり、既存のサービスを拡張するための共有ストレージが必要なスタッフや事業部門による調達が可能です。パブリック・クラウドは、私たちが現在目にする多くのイノベーションの根底となる新しいレベルの俊敏性と簡素性を提供します。

従来の IT 組織の多くは、同程度の俊敏性や柔軟性を持つ機能を提供しようと奮闘しています。例えばクラウド・インフラストラクチャへ切り替えを行っても、従来のワークフローや手動による介入、ビジネス調達要件によってスピードが低下することが多くあるため、パブリック・クラウド体験の簡素性や俊敏性を一致させることは困難です。これらの課題により、組織内の IT 担当者を介せずに IT 機能を調達するビジネス・ユーザーの数が増えています。業界ではこれをシャドー IT と呼びます。ユーザーや開発者がシャドー IT を使用するのはイノベーションを加速化し、新しい機能の製品開発期間を短縮できるオンデマンドの機能のためです。

ただし、シャドー IT に簡単にアクセスすることにはリスクが伴い、従来の IT 組織の多くがこの問題の解決に対する圧力に悩まされています。つまり、ユーザーは自分たちのクラウド・アクティビティを常に IT に知らせていないため、多くの IT 組織は自分たちのスタッフがどのクラウド・サービスを使用しているかを把握していません。IT はどこにデータが格納されているか、データ・セットが保護されているかどうか、データやアプリケーションのバックアップが行われているか、長期的なビジネス要件に合わせて機能が拡張されるのか、そしてコストがいくらなのかを把握していません。



IT 組織は圧倒的な代替策を提供することで シャドー IT を解決しなければならないことが明らかとなっています。パブリック・クラウドはユーザーに高い柔軟性を提供し、IT はもはや同等品である、オンデマンド・サービスに対するニーズを虫することはできません。事実上、IT 組織はリスクのないシャドー IT 機能とメリットを提供する必要があります。IT 組織がオペレーションの最適化(俊敏性やスピードの制約を受けずにクラウド機能を調達・提供するための自動化された、堅牢で柔軟性が高いアプローチ)を提供できなければ、ユーザーは IT の監視の外でクラウドを購入し続けるでしょう。全体的な目標はシャドー IT を抑制するのではなく、含有する方法を見つけることです。

この記事では、IBM cloudMatrix によって IT オペレーションがシャドー IT アクティビティの統合を開始し、体験とスピードを改善し、組織的行動の転換をサポートする 3 つの方法を提供するしくみについて説明します。IBM cloudMatrix を使用することで、企業は既存リソースを検出し、新しいリソースに対する可視性や、シャドー IT と同等の代替品を提供するアプローチを考案することができます。組織は小さな機能から開始し、必要に応じて機能を拡張できます。

従来の IT 組織の多くは、同程度の俊敏性や柔軟性を持つ機能を提供しようと奮闘しています。

質問の検討

IT 部門は長い年月をかけ、企業全体の技術的インフラを管理する構造やプロセスを構築します。構造やプロセスが増えるにしたがい、俊敏性が低下し、結果としてビジネス・ユーザーの現在のニーズへの対応速度が遅くなります。IT がサポートを必要としても、会社を保護するプロセスが妨げになる場合があります。

これらの制限に逆らうことはできません。端的に言うと、ユーザーは数時間や数日の間ただ座ってコンテナ画像や仮想マシンを待ってられません。彼らは、遅延や複雑性のないオンザフライの計算、ストレージ、帯域幅を必要としています。IT が提供できなければ、ユーザーはどこか別の別の場所へ行ってしまうでしょう。

組織を効率的にサポートするため、IT 運営は次の 3 つの質問を解決する必要があります。

1. ユーザーがパブリック・クラウドを購入するための、認可された自動プロセスを提供するにはどうすればよいですか?ユーザーがパブリック・クラウドを購入しており、今後もこれを続けることは明確です。ユーザーがコストの課題やビジネス・リスクにつながらない方法で価値の仕様を継続できるよう、IT はどのようにして、パブリック・クラウド消費を統合し、標準化できますか?
2. シャドー IT に関連するセキュリティやデータのリスクをどのように解決しますか?クラウドが数十のクラウドに広がっている様子を想像してください。IT が不規則な広がり管理するにはどうすればよいですか?可視性がない状態では、数百ものワークロードをどのように監視、管理、保護すればよいでしょうか?
3. イノベーションに必要なスピードや俊敏性を犠牲にすることなく、パブリック・クラウドのアクセスや活用をコントロールするにはどうすればよいでしょうか?ビジネスは、IT がオペレーションを妨げるのではなく成功に導くことができることを当てにしています。調達、コスト管理、ガバナンスおよび管理を整理するにはどうすればよいでしょうか?

これらの質問の解決は簡単ではありませんが、方法があります。

前進するための方法: IBM cloudMatrix

IBM cloudMatrix は 3 ステップでパブリック・クラウドのような俊敏性を提供するソリューションで組織をサポートします。

ステップ 1) 既存のリソースを検出して同期する

最初は、クラウド内に現在どのようなリソースがあるかを把握します。IBM cloudMatrix を使用することで、IT 組織は主要なクラウド・プロバイダーから既存の資産を検出および同期するのに役立ちます。これらの隠れたリソースを一元化された場所に集めることで、IT は既存のリソースの詳細なビューを手に入れ、将来のアプリケーション・アーキテクチャでタグを付けて活用することができます。

IT は標準 IT 調達プロセス以外で購入・使用されているリソースを把握しようと奮闘しています。この機能により IT とユーザーは既存のプロバイダー・アカウントからリソースを検出し、IBM cloudMatrix に表示できるようそれらのリソースを同期することが容易になります。リソースを一か所に集中させることで、IBM cloudMatrix は IT がセキュリティ手順を大々的に確認できるようサポートします。IT はユーザーがパブリック・クラウドをどのように使用しているかを把握でき、コスト管理や将来の計画に役立てることができます。

ステップ 2) 新しいパブリック・クラウド展開を追跡する

IBM cloudMatrix を使用することで組織は一元化されたストアからパブリック・クラウド製品を提供でき、IT はユーザーがパブリック・クラウド機能を消費すると同時に資産を追跡し、使用状況を追跡できる新しい方法を手に入れることができます。組織には、完全に管理されたソリューションを提供するプロセスがまだない場合があります。そのような場合でも、IBM cloudMatrix を使用することで優れた可視性と洞察を手に入れ、同時に IT のカタログ使用に向けてユーザーを促し始め、シャドー IT の需要と活用を削減することができます。

IBM cloudMatrix では、標準小売価格を使用するか、契約価格を適用して、あらかじめ用意されたカタログで主要プロバイダーの使用を開始することができます。IT 管理者はカタログに表示される内容をカスタマイズできます。

ステップ 3) 認証済リソースを使用するインセンティブを作り出す

IBM cloudMatrix を使用してさまざまなパブリック、プライベート、仮想展開オプションからあらかじめパッケージ化され、吟味されたソリューションを含む堅牢なマーケットプレイスを構築し、デリバリーのスピードを上げるため、オンプレミスとオフプレミスのリソースで自動化された展開を提供します。

IBM cloudMatrix を使用することでソリューションのブループリントを構築、管理ポリシーを組み込み、承認プロセスを自動化するのが容易になります。IT がガバナンスを生みこむ同等のオプションやプロセスを提供でき、それによってスピードや俊敏性に対する影響を大幅に削減します。

組織に最適なオプションや押しつけがましくない管理を選択するツールという優れた選択肢を提供し、ユーザーが求めるスピードや俊敏性ととも、IT が必要とする可視性とコントロールを提供します。

IBM cloudMatrix が重要な理由

IBM cloudMatrix は障壁のない、パブリック・クラウドの認証消費方法を提供することにより、ユーザーが新しいやり方でユーザーをサポートできるようサポートします。同時に、クラウド・リソースに対する新しいレベルのアクセスや可視性を提供します。IT はユーザーが自分たちのプロジェクトのパブリック・クラウド容量を自己管理する間、セキュリティ・リスクを管理し、使用状況を監視できるより優位な立場を手に入れます。

ある観点から見ると、IBM cloudMatrix は高度に自動化され、より簡単に調節可能な、マルチ環境編成・管理エンジンです。これにより、IT はさまざまな環境、インフラストラクチャ、プロバイダーでシンプルまたは複雑な、新規/既存のアプリケーションを編成できます。IBM cloudMatrix はインフラストラクチャ・リソースの実装、上から下までのアプリケーションスタックの展開や構成、セキュリティ設定を管理します。

IBM cloudMatrix は高度に自動化され、より簡単に調節可能な、マルチ環境編成・管理エンジンです。

見方を変えれば、IT オペレーションをイノベーション・エンジンに帰るために存在するツールです。迅速なプロビジョニングについてユーザーが頼りにできる標準化ブループリントとフレームワークを使用し、IT オペレーションヲ手動で痛みに満ちた存在から、IT 調達に自動化されたセルフサービス・モデルへと切り替えるようサポートします。

この仕組みを説明するシナリオを探索してみましょう。

ユーザーは IT の関与や可視性を受けることなく AWS を使用しています。これにより、組織には隠れたコストが発生しています。IBM cloudMatrix を実装すると、ユーザーは IBM cloudMatrix マーケットプレイスから AWS 容量を利用できるようになります。ユーザーはパブリック・クラウド調達、プレ・パッケージ・ソリューション、社内リソースの統合された店舗にアクセスできます。つまり、同じ社内ポータルからオンプレミスとオフプレミスの両方のリソースを利用できます。

マーケットプレイスからパブリック・クラウド・リソースを購入すると、仮想データセンターや事業部門に関するタグが追加され、素早く識別することができます。利用状況とユーザーを結び付けるのが簡単になります。

IT は容易に使用量のアラートを設定し、セキュリティ設定を確認、使用状況を追跡できます。使用パターンによって問題が発覚した場合、IT はユーザーに高度なサービスを提供し、不具合を積極的に修正できます。

IBM cloudMatrix は主要プロバイダーの請求書を自動的に同期します。実際の費用と IT の見積もりを比較します。経費が範囲外となっている場合、IBM cloudMatrix はアラートをトリガーし、ユーザーと協力して問題を解決します。この状況が発生した場合、組織は経費を監視し、異常を特定して経費を制限できます。

IBM cloudMatrix を使用すると、経費の監査やリスクの評価は非常に簡単になります。

- 仮想データ・センター (VDC) レベルで検出・動機を行い、経費とみなすことができる追加リソースの有無を判断する
- IBM cloudMatrix のセキュリティ監査機能を使用し、軽減が必要なリスクがあるかどうかを素早く確認する
- セキュリティの脅威が保証される場合はリソースをオフラインに持ち出す

組織に最適なオプションや押しつけがましくない管理を選択するツールという優れた選択肢を提供し、ユーザーが求めるスピードや俊敏性ととともに、ITが必要とする可視性とコントロールを提供します。

ITは問題を迅速に解決し、ユーザーと協力してIT承認構成を設計、一貫性のある利用を促すブループリントを作成、サービス・マーケットプレイスに新しいリソースを直接割り当てることができます。ユーザーは組織を守る方法に必要なリソースへのアクセスを円滑に行う、新しい種類のサポートをITから得ることができます。

IBM cloudMatrix のメリット

IBM cloudMatrixは、「棒」を使用せずにユーザーに「人参」を与えることでシャドー ITを含有する方法を提供します。ITの承認を受けたマーケットプレイスでパブリック・クラウドを購入できるため、ユーザーはITを避ける必要がなくなります。同時に、ITはセキュリティとコストの管理に必要な可視性とトレーサビリティを利用できます。

ユーザー - IBM cloudMatrixは1つの店舗から多くのクラウドで、堅牢なユーザー体験を提供するため、生産性を押し上げ、製品開発期間を短縮します。同一条件での比較により、十分な情報を得た選択を行い、より優れた結果をもたらすことができます。開発者はオンプレミスやオフプレミス、またその2つの混合のどれであっても、生の容量から「ちょうど良い」環境に完全に構成されたアプリケーション・スタックに至るまですべてをセルフサービスで割り当てる容量を利用できます。ユーザーはスピードやポリシーを選択する必要はなくなりました。

IBM cloudMatrixでは、ユーザーは開発から製造に至るまでの間、一貫性がある、反復可能な環境を享受することができます。

IT コントローラー - IBM cloudMatrixはコストの超過を予防します。予想される使用量と実際の使用量を比較し、逸脱している場合にはアラートが発生します。ユーザーが何か予期しないことを実行した場合でも（予想された2倍のAWSインスタンスのプロビジョニングなど）、ITは変化する状況を迅速に確認できます。経費の超過を迅速に遡って追跡し、コントローラーにユーザーと関わりを持つよう力を与えます。さらに、IBM cloudMatrixは多くのクラウド・プロバイダーの経費を合理化し、ユーザーがよりコスト効果の高いオプションを見つけられるようサポートします。

IT オペレーション - IBM cloudMatrixはオペレーションの効率を高めます。単一のプラットフォームは、開発や生産のさまざまな段階で一貫性を確保するのに役立ちます。IBM cloudMatrixは競合を減らしながら、競合を減らしながら共通の目的を強調し、ITとユーザーの間に新しいつながりを構築するのをサポートします。保護されていないシャドー ITからユーザーの目をそらし、可視性とコントロールを向上することで、組織にとってのリスクや課題も削減します。ITは消防士のように火消しに追われて時間を費やす必要がないため、イノベーションをサポートするより優れた立場につくことができます。優先度の低い要求に対応したり、準拠していないソリューションを「本番稼働環境ですぐに使用可能」にしようと奮闘する必要がなくなります。代わりに、ITは問題の発生を止めるのに役立つシステムを構築するようになります。所要時間を短縮、コストのコントロールを改善、リスクを軽減します。

IT 役員 - IBMはアドホックのシャドー ITから本格的なハイブリッド ITへの切り替えを可能にすることで、効率性や満足度、ビジネスの利益を加速化します。ユーザーは妨害されず、ITは酷使されません。また、IT エグゼクティブは保護されていないアプリケーションやデータのリスクに対する心配がなくなり、より高いレベルの快適性へ意識を向けることができます。また、IBM cloudMatrixは新しいチャンス、競争力のあるメリットや差別化に関する考え方を改善するため、IT エグゼクティブは「革新的な会話」の優位な立場に立つことができます。

まとめ

シャドー ITはビジネスの問題解決に役立つためなくなりませんが、これにより、許容できないリスクが生まれます。一部の組織はこれを恐れていますが、組織はシャドー ITの俊敏性ととともに従来のアプローチの管理を必要としています。IBM cloudMatrixはユーザーがパブリック・クラウド容量を使用するための効率的で自動化されたセルフサービス・ソリューションを複数の環境、プロバイダーまたはテクノロジーで数分以内に提供します。シャドー ITに対する柔軟で俊敏な代替策とともに、ビジネスのイノベーションの障害となるのではなく、実現に必要なコントロールと管理を提供します。

IBM cloudMatrixにより、企業はハイブリッド ITにマルチソースのオペレーティング・モデルを使用してハイブリッド ITに適応させることができます。企業はIBM cloudMatrixセルフ・サービス・ストア、動的なマーケットプレイス、および継続的デリバリー・エンジンを通じて、ITサービスの消費をカスタマイズし、デリバリーを統合できます。IBM cloudMatrixを使用することで、企業IT組織は以下により画期的な成果を上げることができます。

- デリバリーにかかる時間を日単位から分単位に短縮する
- インフラストラクチャと運用コストを削減する
- 自動化された、セルフサービスの受注設計モデルで俊敏性を提供する

詳細については、
<https://ibm.biz/brokerageservices> を参照してください



© Copyright IBM Corporation 2016

IBM Corporation
Software Group
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in Japan
May 2016

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および Gravitant は、世界の多く国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、「著作権と商標情報」(ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。

本資料は最初の発行日の時点の内容であり、予告なしに変更される場合があります。当文書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、IBMは予告なしに変更を加える場合があります。すべての製品、サービスが、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能ではありません。掲載されている製品・サービスは IBM がビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。

本資料の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。

日本 IBM 製品は日本 IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

確実なセキュリティ体制への取り組みについて:IT システムのセキュリティでは、社内外の不適切なアクセスの防止策、検出、対応に取り組むことで、システムと情報を保護しています。不適切なアクセスにより、情報が改ざん、破壊、または不正利用される可能性があり、システムへのダメージや他者への攻撃といったシステムの悪用が生じることがあります。IT システムまたは製品によってセキュリティ対策が万全になると考えることは危険であり、1 つの製品またはセキュリティ対策で不正アクセスを完全に有効に防ぐことはできません。IBM のシステムと製品は、包括的なセキュリティ・アプローチの一部として設計されています。そのため、運用手順を追加することがどうしても必要となり、効果を最大限に高めるには、他のシステム、製品、サービスが必要になることがあります。IBM は、システムと製品が他者による悪意のある行為または不正行為から免れることを保証するものではありません。

1 Kuttikrishnan, D. 著, "Cloud Computing: Slow Adoption Rates", "Current Obstacles; IT Business Edge", 2011 年 11 月 16 日, <http://www.datamation.com/cloud-computing/cloud-computing-slow-adoption-rates-current-obstacles.html>

2 Weins, K., 著, "Cloud Computing Trends: 2015 State of the Cloud Survey", Rightscale 社, 2015 年 2 月 18 日, <http://www.rightscale.com/blog/cloud-industry-insights/cloud-computing-trends-2015-state-cloud-survey>



リサイクルにご協力ください